学校番号	1202

令和８年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　改訂　地学基礎」（第一学習者）						
副教材等	「自作のプリント」						

1　担当者からのメッセージ（学習方法など）

・ノートは使用しません。教科書とプリントを用いて授業します。
・自ら「どうなる？」と予測を立て、「なぜ？」と理由を考える習慣を身につけましょう。
・理系文系を問わず「考える力」を養える授業を心がけます。
・地球や宇宙の勉強を通して成長する君たちの姿を期待します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・地球の構造や、プレートの運動と地殻変動や地震・火山などの地球の活動との関連や地球の大気と海洋の働きを理解する。
・太陽系に誕生した惑星としての地球の特徴や、現在までの地球規模の自然環境および生物の変遷を理解する。
・地球の環境と人間生活との関わりについて理解する。
【思考力、判断力、表現力など】
・日常生活や社会との関連を図りながら、現在の地球の活動と現在に至るまでの地球の過程について、自ら課題を設定し見通しをもって観察、実験などを行うことができる資質・能力を育む。
【学びに向かう力、人間性など】
・地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、科学的に探究する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	教科書などの忘れ物をせず、授業に積極的に取り組もうとしている。 観察や実験に自ら取り組み、科学事象に対して前向きに考察しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	地球のすがた・地球の活動	地球の形と大きさ 地震 地震波 日本の地震	a:エラトステネスによる測定をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。 a:「地形図利用」の実習の過程や結果を的確に記録し、整理している。 b:大森公式を利用して、初期微動継続時間から震源距離を求める過程を説明できる。 c:日本付近で発生する地震の分布と種類に関心をもち、地震のおこるしくみについて意欲的に探究しようとしている。	定期考査 実験器具の取り扱い 確認テスト	定期考査 パフォーマンス課題 実験レポート	授業に対する姿勢 発問への返答 授業プリント
2学期	大気と海洋	大気の構造 熱収支 大気の大循環	a:「高度別気温データからグラフ作成」の実習の過程や結果を的確に記録し、整理している。 a:太陽放射、太陽定数、地球放射を理解し、知識を身につけている。 b:緯度ごとのエネルギー収支のグラフから地球の南北の熱の輸送について説明できる。 c:緯度ごとのエネルギー収支に関心をもち、大気の大循環について意欲的に学習しようとしている。			
3学期	宇宙と地球・地球環境	宇宙の探求 地層 日本の自然環境 災害	a:日本付近の気団や四季の天気の移り変わりを理解し、知識を身につけている。 a:「近畿地方の地震災害」をまとめる実習の過程や結果を的確に記録し、整理している。 b:地層がどこで形成され、どのような地殻変動を経て地上に露出しているのかを説明できる。 c:宇宙の探究の歴史に関心をもち、宇宙の構造やその誕生過程について意欲的に探究しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度